

研究区分	教員特別研究推進 教育推進
------	---------------

研究テーマ	対話型鑑賞は歯科衛生士のネガティブケイパビリティを育むか				
研究組織	代表者	所属・職名	短期大学部 歯科衛生学科 准教授	氏名	金山 圭一
	研究分担者	所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
	発表者	所属・職名	短期大学部 歯科衛生学科 准教授	氏名	金山 圭一

講演題目
対話型鑑賞は歯科衛生士の Visual intelligence を育むか
研究の目的、成果及び今後の展望
<p>本研究では、良き医療者の資質である「臨床的観察力」「不確実性への耐性」の育成を目的としている。医療者に対するアートの教育効果をレビューした総説 (Mukunda N et al, <i>Med Educ Online</i> 2019) では「臨床的観察力, 共感, 不確実性への耐性, 文化的感受性 (多様な視点), 協働」につながるものが示されている。そのためにアートを導入した歯科衛生士教育プログラムを設計した。対象は静岡県立大学短期大学部1年生と3年生である。令和6年度は1年生対象のプログラムのみ実施した。必修科目(病理学, 口腔病理学)の時間内で, 研究代表者をファシリテータとした対話型鑑賞を行った。プログラム前後で Visual intelligence assessment tool を参考に作成した自記式調査票により, Visual intelligence への影響・効果を測定した。</p> <p>20項目からなる調査票の中で, プログラム前後で変化のあった項目のうち「自分の第一印象を信じる」, 「私には完璧な視野がある」は実施前に比べ「そうである」, 「まあそうである」の回答率が低下した。複数の他者と絵画作品を対話しながら鑑賞することで, 自分の視点以外のものが見えた経験が反映されていると考えられる。また「私は物事の細部も全体も両方とも見ることができる」の回答率は上昇した。時間をかけて作品を鑑賞したことが, 対象物を注意深く観察できる自信につながったのかもしれない。</p> <p>3年生を対象としたプログラムが実施できていないので, 来年度はプログラムを設定した3年生対象の選択科目の履修登録を呼び掛けたい。こちらのプログラムでは対話型鑑賞に加えて, ブラインドトーク, ラウンドスケッチなどのワークを取り入れる計画である。評価指標の Visual intelligence 以外に, 多次元共感性尺度 (MES) や曖昧さ耐性尺度 (J-TAMSAD) を足すことで不確実性への耐性や協働への影響・効果も検討する予定である。また「臨床的観察力」の評価は, プログラム実施前後に口腔粘膜疾患を題材に写真問題を作成し, 学生の回答を点数化し比較することも計画している。</p>